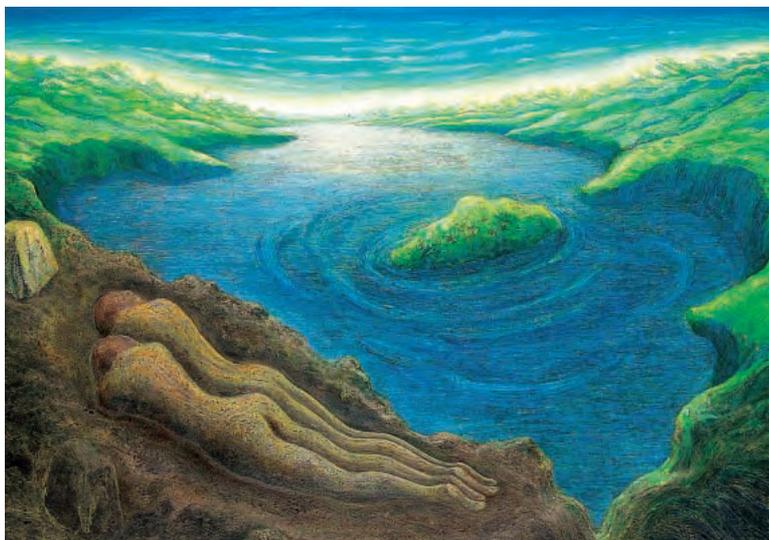


# 石川県立美術館だより

第314号 平成21年12月1日発行

BIJUTSUKAN  
DAYORI



田井 淳 遙かの国へ  
特集展示「田井 淳 -無限の中へ-」



重文 佛果碧巖破閑撃節(一夜碧巖集)  
希玄道元 鎌倉13世紀 大乘寺蔵  
特集展示「曹洞宗の名刹 大乘寺の名宝」

- 特集展示 大名夫人の調度 -婚礼調度を中心に- 前田育徳会尊経閣文庫分館
- 特集展示 曹洞宗の名刹 大乘寺の名宝 第2展示室
- 特集展示 田井 淳 -無限の中へ- 第3展示室

## ■ コレクション展示室 -主な作品

- 12月の企画展示室
- 企画展 Topics
- ミュージアムレポート
- 行事案内
- ミュージアムショップ通信

曹洞宗の名刹

## 大乘寺の名宝

11月29日(日)～12月23日(水・祝)  
会期中無休

加賀の古刹、大乘寺の文化財を紹介しします。大乘寺は鎌倉時代末、加賀の守護富樫家尚の創建とされ、現在の野々市町に真言僧の澄海を住持させたことに始まると伝えられています。永平寺の徹通義介を招いて禅寺としたことにより、大乘寺は永平寺以外では最初に建てられた曹洞宗寺院であるとして「曹洞宗第二の本山」とも称されることとなります。

その後、大乘寺二世塋山紹瑾、三世明峰素哲の時期に基礎が築かれ、室町時代には足利幕府の祈願寺として寺領・屋敷が安堵されました。しかし、国主の富樫氏が一向一揆によって倒され、その保護者を失うことになったばかりでなく、一揆を平定した柴田勝家の兵火によって、堂宇も焼失してしまいました。

加賀藩の時代になって復興が行われ、二代藩主・前田利長の時代、金沢木の新保（現在の金沢市本町）に移転・再興されました。さらに本多政重により、本多家下屋敷の隣接地である石引大乘寺坂（現在の本多町）付近に移転します。その後藩より与えられた現在の地、長坂に移転し、今日に続くこととなるのですが、今でも県立工業高校から石引台地へ登る坂を大乘寺坂と呼んでおり、かつての名残をとどめています。

現在、当館に一括寄託される大乘寺の文化財は、古文書・絵画・工芸の類などですが、今回はそれらのうちより、『佛果碧巖破関撃節』（一夜碧巖集）をはじめ、重要文化財五点を含む、二十点を展示します。

## 大名夫人の調度

—婚礼調度を中心に—

11月29日(日)～12月23日(水・祝)  
会期中無休

婚礼調度とは、婚礼にあたって女性の家から嫁ぎ先へ持参された「嫁入り道具」のことです。それら化粧道具・文房具・遊戯具などは、蒔絵で家紋が散らされた豪華な装飾で、意匠も統一されていました。前田家では、徳川家からの輿入れが多く、将軍家からの輿入れに際しては、新しい御殿（御守殿）を新築して、姫君を迎えています。本特集で紹介するのは、十三代藩主斉泰に嫁いだ十一代将軍家斉の二十一女・借子（溶姫）の婚礼調度ですが、溶姫を迎える際に建てられた御守殿門は、現在、東京大学にある「赤門」としてよく知られています。

## 厨子棚

拾式手箱・香盆・硯箱など、化粧道具・香道具・文房具を置きます。厨子棚は、平安時代の公家の調度に始まり、室町時代に黒棚とともにこの

形式となったと考えられています。家具というのがほとんど発達しなかったわが国においては、数少ない伝統的調度といえます。

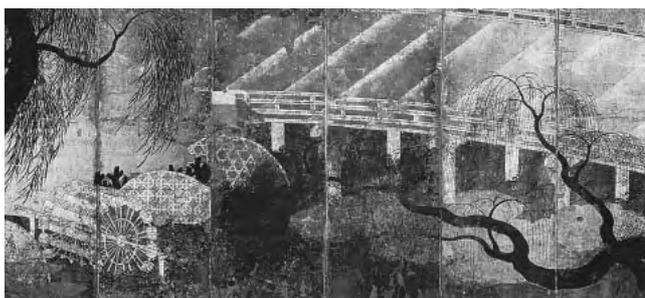
## 拾式手箱

手箱は、平安時代に貴族の手回り道具を入れた箱に始まり、鎌倉時代以降は、化粧道具のみを納めるようになります。大円形の鏡箱（二合）など十二合の箱が納められます。

## 短冊箱

短冊を納めるための長方形の箱です。いつでも短冊に詩文が書けるように、懸子には硯・水滴・筆が納められています。

本特集では、こうした調度を中心に、香道具と遊戯具も紹介します。



柳橋水車図屏風（左隻） 桃山16～17世紀

厨子棚

# 主な展示作品

11月29日(日)～12月23日(水・祝)  
会期中無休

## 近現代工芸

佐治賢使 残影(棚)



森口華弘 留袖「白梅」  
室田芳子 葦笛

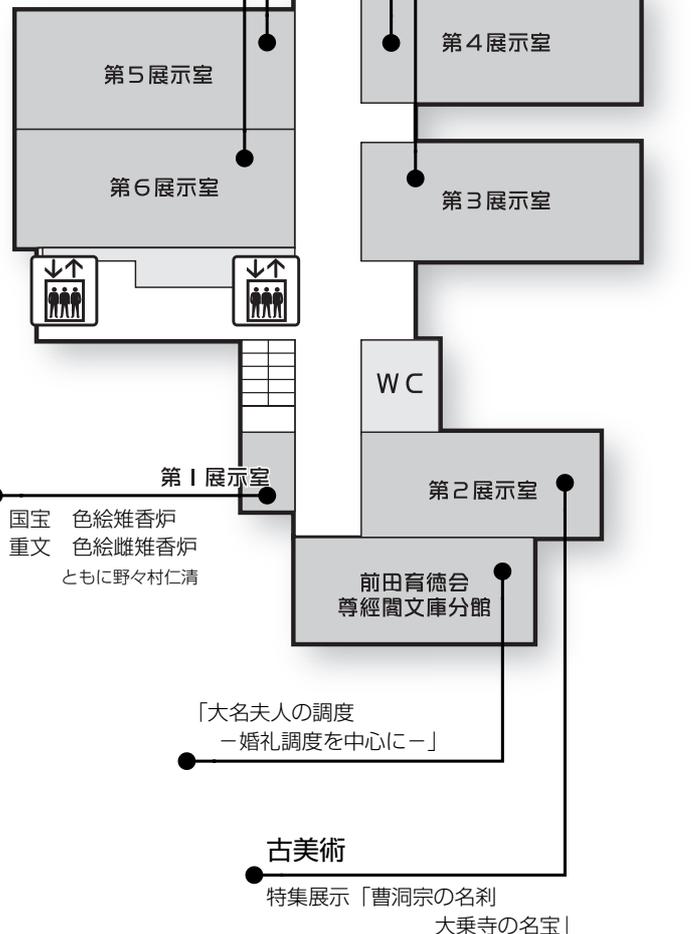
## 日本画

坂根克介 料理人



下村正一 集まる  
羽根万象 眠る子

2F



# 田井 淳 -無限の中へ-

11月29日(日)～12月23日(水・祝)  
会期中無休

本展は洋画家田井淳<sup>たいあつし</sup>氏が、昭和五十三年に描いた「風が吹かれて(静かなる出航)」から、平成五年以降の「遠い影」シリーズをへて、本年独立展出品作「遙かの国へ」などの直近の作品まで、三十年間の創作の歩みをご覧いただくものです。

田井氏は五十一年に金沢美術工芸大学油絵科を卒業、東京の創形美術学校造形研究科に学んで、五十三年に同校を修了します。金沢に帰ってから田井氏の活動は、地盤のない金沢に「独立美術協会」の種をまくという難業で、美大の有志を引き連れ、富山・福井・新潟を交えて活動の幅を広げていきました。

岩肌を思わせる背中の子像を描く「遠い影」シリーズを中心に、前後三期に本展は構成されます。前期は「独立美術協会」を金沢に根付かせようと奮闘する時期と重なり、様々なスタイルの変遷が目を引きまます。中期は「遠い影」の子像がゆった

## 講演会

日時…十二月五日(土) 午後二時～ 聴講無料  
会場…美術館ホール  
講師…田井 淳(洋画家・独立美術協会会員)

りと歩みを進める時期、地から這い出した男女の子像が揺れるようにうごめき、やがて、後方の穴へと向かい始め、四方から集結してきた背中は川のように連なり、虚空を越えて現世への誕生を待つのです。そして、後期である近作は、愛し合う男女が憩う姿を淡い青緑色の世界に描き出されるのですが、あたかも「遠い影」の背中の子像が虚空を抜けて楽園に生まれ変わったかのような「背中」というひとつの素材にテーマを持って育んでいく、田井氏の画業をぜひご覧下さい。



田井 淳 遠い影 '94II

# 十二月の 企画展示室

## 第94回公募写真展 研展

十二月三日(木)～七日(月)

(第8・9展示室)

東京写真研究会が主催する研展は、関東・中部・関西・北陸の四支部で構成されています。公募展は、会員部門と公募部門に分けられていて、今回は二百三十四点の作品が展示されます。北陸部においての入賞者は、会員部門は四名、公募部門は六名となりました。

合評会は十二月六日(日)午後二時より行います。

◇入場無料

◇連絡先 金沢市東山二丁目二一八 土田貴夫

TEL 〇七六一二五一〇七二三

## 第55回記念一陽展 金沢展

十二月十一日(金)～十五日(火)

(第7～9展示室)

昭和三十年七月に鈴木信太郎・野間仁根・高岡徳太郎らを中心として、一陽会は「清新にして深奥なるものの創造に勉勵し、新時代の美術を推進せん」「尖锐なる未完成こそ推薦」をスローガンに掲げ組織され、本年で創立五十五年を迎えました。多彩な作品群を擁し、抽象と具象の作品が競合する展覧会です。今秋、国立新美術館で開催された第五十五回記念一陽展の出品作品より選抜された基本作品と北陸支部地元作品の油彩画・アクリル画・版画・彫刻の百十六点を展覧します。ベテラン作家の秀作から尖锐な若手作家の力作をご鑑賞ください。

◇主な出品作家

森 秀雄、棚瀬修次、細川 尚、沢オイ、小池郁男、大場吉美、岩永勝彦、佐川文字、野中未知子、判 三教、安田 淳、大鍬英治、浮田正樹

◇入場料 一般 五〇〇円(三〇〇円)

大学生以下無料 ( )内は団体料金

※当館友の会会員は会員証提示で団体料金になります。

◇連絡先 金沢市粟崎町二一八六 大場吉美方

一陽会北陸支部事務所

TEL 〇七六一二三八三〇九六

## 第33回公募日創展

## & 新院展 選抜金沢展

十二月二十日(日)～二十二日(火)

(第7～9展示室)

日創展から、会長丹羽俊夫(新院展会長)、理事長三宅厚史、事務局長今村文男をはじめ、石川、富山、福井、岩手などから、幅広い年齢層の日本画を約百点、新院展(東京展)からは、名誉会長石井宝山の作品を含む約五十点を選抜して展示します。

◇主な出品者

北出朝之、保科 誠、柴田輝枝、南 好乃、中村 勝代、松尾功一朗、福井淳一、村中博文、伊藤夏子、牛丸美代子、大窪昭子

◇入場無料

◇連絡先 金沢市窪一―二二三 丹羽俊夫

TEL 〇七六一二四四一五九一六

# きじっこ茶会募集

## ◆体験講座「きじっこ茶会」

日 時… 一月二十四日(日) 十三時三〇分  
 会 場… 広坂別館 和室  
 参加費… 親子で八〇〇円  
 定 員… 各席親子十組二十人  
 申し込み方法：往復はがき  
 締め切り… 一月八日(金)

一月二十四日(日)開催のキッズ☆プログラムは、親子で参加して頂く『きじっこ茶会』です。十月には風炉での茶会をお楽しみ頂いた『きじっこ茶会』も今回で三回目。来春、一月四日(月)から二月七日(日)まで、第二展示室で開催される「特集展示 茶道美術名品展」に合わせ、この展示の鑑賞とお茶会で、茶道具に親しんでいただくという企画です。参加ご希望の方は、下記に従ってお申し込みください。

## 往復はがきでのお申し込み方法

### 往信の宛名面

〒九二〇一〇九六三 金沢市出羽町二一  
 石川県立美術館 普及課宛

### 往診欄の文面

- ・参加希望する講座名
- ・保護者・児童の氏名
- ・学年
- ・住所、電話番号

### 返信の宛名面

住所、お名前

### 返信の文面

何も書かないでください

\*定員を上回った場合は抽選となります。結果は、返信はがきでご連絡いたします。



10月のきじっこ茶会

# 遠き道展

—伝えたい日本画の今—

1月4日(月)～2月7日(日)

前号では本展の二本柱のうち、「現代日本画の普及」という観点で紹介しましたが、今回は「視覚障害のある観客の平面鑑賞」についてご紹介したいと思います。

「目の不自由な方が絵画を鑑賞？」と、いぶかる声もあるかと思えます。しかし、本展はその試みをしている希な展覧会です。

今回展示する作品のうち約四十点に「視覚障害者向け音声ガイド」が用意されています。通常の音声ガイドとの違いは、作家や作品の歴史的背景や作画についての解説ではなく「画面のどこに、何がどのように描かれているか」ということを端的に述べることに重点がおかれていることです。また、あまり耳慣れない「触察」という試みも

あります。「手でみる作品ガイド」(十点)、「レリーフ」(十点)、「さわれる日本画」(二点)など画期的な試みがされています。「手でみる作品ガイド」は点字の解説に加え、膨らむインクで本画を単純に線で表した絵が添付されています。「レリーフ」は縮小された作品の一部または全部をレリーフに置き換え、手で確認できるようにした物です。「さわれる日本画」は本展の出品作家本人が、触ることを目的として自作を岩絵の具で縮小表現したものです。

この他に視覚障害者向けのワークショップ等も予定されています。本展が展覧会におけるバリアフリーの一里塚となるかも知れません。



視覚障害者向け平面鑑賞レリーフ

# 「空間をたのしむ」—京都の茶室、庭園、障壁画

平成21年10月17日(土)・18日(日)

今回の文化財現地見学旅行は庭園、茶室、障壁画の見学を中心に、京都方面へ出かけてきました。「空間をたのしむ」というテーマの通り、眼だけでなく、五感をつかってゆっくりと贅沢な空間と時間を楽しんでいただくとうとする企画でした。

初日は京都市内から高速道路で四〇分ほど離れた乙訓郡大山崎町をゆっくり見学しました。「妙喜庵」は利休唯一の遺構といわれる茶室「待庵」(国宝)を持つ臨済宗の小さな寺院。JR山崎駅前にある庵は、「え、こんなところに?」と思われるほど意外でひっそりとした佇まいです。予定よりも十分も前に到着したにもかかわらず快く受け入れてくださった住職のご厚意に甘え、ゆっくりと拝観することができました。途中雨に降られた班もありましたが、しつとりと濡れた露地とキンモクセイの香り、丁寧な住職のお話と併せて思わぬ豊かな時間を過ごすことができました。「大山崎町歴史資料館」では待庵の原寸大模型の見学が目的でしたが、特別展「豊臣秀吉と大山崎町」を開催しており、学芸員の方から熱く丁寧に戦国時代の要衝大山崎町の歴史を語っていただきました。

「利休八幡宮」のお下りの油であげたという天井で腹ごしらえをしたあと、ボランティアガイドの方々と一緒に天王山の麓「アサヒビール大山崎山荘美術館」へ歩をすすめます。きつい登坂でしたが、ガイドの方から道すがら聴く山荘を建てた加賀正太郎氏の話が、上がり続ける心拍数を抑えてくれたようです。美術館に到着し学芸員の方から建物、展示会の概要を説明していただき、一

同中へ。贅の限りを尽した館内に、初めて来られた方は感嘆しきりだったようです。

二日目は青空の下、京都市内へ。朝一番は「元離宮二条城」です。ご存知の観光スポットですが、桃山時代を代表する障壁画を堪能するには欠かせないところでもあります。学芸員の方から収蔵館で解説を受けた後、二の丸御殿へ。文化財保存の観点や狩野派の見どころを交えた解説で今まで以上に二条城を理解していただけたのではないのでしょうか。

「金地院」は南禅寺の塔頭にあります。南禅寺に行かれても、金地院は素通りされている方が多いようで「こんなところに等伯の猿猴捉月図や遠州の作事があったとは」と喜んでいただきました。昼食の後は「北村美術館・四君子苑」です。美術館では「秋興の茶」という展示会を木下館長の解説で観ました。「四君子苑での茶事」を想定した展示シナリオは、「北村さんの茶事に読んで貰ったような気がしました。」という声も。茶室、庭園の「四君子苑」は一般公開二日前の特別な事前公開でした。管理されている池田さんから北村勤次郎氏の心遣いの一つ一つを染みいるようにお話ししていただき、爽やかな秋の風と共に贅沢な時間を過ごすことができました。

今回も参加者の皆さんのおかげで、無事二日間の行程を完了することができました。今回は定員の二倍に迫るご応募をいただきました。次回以降も皆様の期待に応えられる内容を検討して参ります。



二条城唐門の前で



大山崎山荘美術館の前に



書院から待庵、露地を望む

# 12月の 行事案内

# ミュージアムレポート

19日(日)	■土曜講座 「百貨店と美術」	十三時三〇分	聴講無料
6日(日)	「溶姫の人生」	講師 野村昭子氏 (歴史家)	
	■講演会	十三時三〇分	聴講無料
	講師 寺川和子氏 (学芸主任)		

## キッズ☆プログラム

### 『きじっ子茶会』 十月四日(日)

十月四日(日)、キッズ☆プログラム『きじっ子茶会』が行われました。前回は、二月の炉の時期。今回は十月ということで風炉の茶会となりました。今回は初の試みとして、茶会后そのまま茶室で本館所蔵の茶道具を間近で鑑賞していただきました。箱に入っている作品を出すところから見ていただきましたが、作品を前にしての皆さんのまなざしは真剣そのもの。箱から出てくる作品を目にして「わあー、きれい」と声があがる作品もありました。「工芸の作品は子どもたちにとってはあまり馴染みのないもの」という先人観を持っていた私たちでしたが、今回の鑑賞での子どもたちの関心の高さに驚き、このような鑑賞の場を設けることも普及活動を広げていく一つの方法だと感じました。

## キッズ☆プログラム

### 『彫刻がいっぱい』 十月十一日(日)

今回のキッズプログラムでは、第四展示室で開催の特別陳列「動物彫刻」にあわせて鑑賞プログラム「動物がいっぱい」を行いました。展示室に足を入れると、まさに「動物がいっぱい」。子ども達は目を輝かせます。一通り作品を鑑賞した後、今回のテーマである「彫刻作品とコラボレーションしよう」に取りかかります。おもしろいと思う彫刻を選び、そこから受けた印象を平面や立体で表現します。最後は彫刻作品と一緒に展示し、写真をバチリ。鑑賞というと受け身な印象になりがちですが、今回は「作品に働きかける鑑賞」を試みました。作業をしているときは「?」と思われる子ども達の作品も、展示室で彫刻と構成すると「!」に変わり、改めて子ども達の感性に目を見張った次第です。

## 次回の展覧会

前田育徳会尊經閣文庫分館
「大名の嗜み」 —茶の湯と文房具—
第2展示室 (古美術)
「茶道美術名品選」
第4展示室 (近現代美術)
「モデリングと 素材との対話」
企画展示室
「遠き道展」 —伝えたい日本画の今—

会期…一月四日(月)～二月七日(日)



「彫刻がいっぱい」



「きじっ子茶会」 菓を鑑賞

## 企画展 Topics

「遠き道展 - 伝えたい日本画の今 -」《作品介绍》

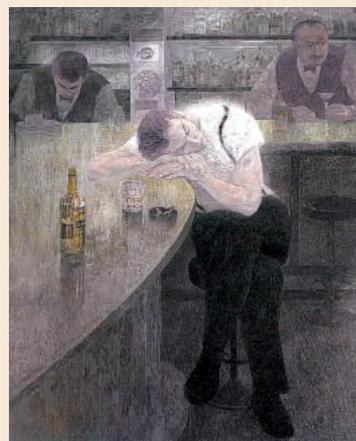
平成22年1月4日(月)~2月7日(日)



土屋禮一 椿樹



梅原幸雄 線香花火



西田俊英 酒場



宮いつき ガーデン



松生 歩 臨在



中町 力 闘牛場の見える街



オリジナルバッグ・各2000円  
※この他にグレー地もあります。

寒さも厳しくなり本多の森にも冬が到来です。さて久しぶりに当館オリジナルバッグの登場です。長らく品切れとなり販売を中止していた黒地に雉と石マークの二点が復活しました。近所にちよっと買い物に出るとき、エコバッグとしてご一緒させて貰えませんか？

## ミュージアムショップ通信

### ご利用案内

コレクション展観覧料  
一般 350円(280円)  
大学生 280円(220円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金

今月の開館時間  
午前9:30~午後6:00

カフェ営業時間  
午前10:00~午後7:00

石川県立美術館だより 第314号 〒920-0963 金沢市出羽町2番1号  
2009年12月1日発行(毎月発行) Tel:076(231)7580 Fax:076(224)9550  
URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

12月の休館日は  
24日(木)~31日(木)です